

高崎市文化財調査報告書第199集

平成16年度
市内遺跡発掘調査報告書

2005

高崎市教育委員会

序

高崎市は昔から現在に至るまで「交流拠点都市」として発展してきた緑豊かな街です。今後もさらに充実した市政をめざして努力していく所存です。

平成16年度の開発に伴う事前調査となる試掘調査では多くの成果を上げることができましたので報告申し上げます。

試掘調査は市全域が対象であり様々な成果がありましたが、それらの内、平安時代の水田跡として発掘調査の対象となったのが4件ありました。状況によってはさらに増加が考えられます。古墳のトレンチ調査では小鶴巻古墳の堀幅がわかりました。乗附町の古墳は前方後円墳と考えられる前方部の堀を確認できたことです。また弥生時代や中世にも加わる資料を得ることが出来ました。

今年度も試掘調査の結果、遺跡が確認されたものについては記録することにした。試掘調査に協力していただいた関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

高崎市教育委員会
教育長 砂田威夫

例言

1. 本書は平成16年度事業の市内試掘調査の結果報告書である。
2. 事務局：神戸聖語 斉藤寛方 山下孝子
3. 調査担当：神戸聖 木間庄司
4. 試掘調査地、遺物撮影は神戸聖がおこなった。
5. 記録は市教育委員会が保管している。

凡例

1. 頁にある頭数字と遺跡名は試掘調査一覧表のNo.に対応する。
2. 本文中の記号A、B、FP、FA、Cは降下テフラの略で、下記のように表記した。
浅間Cテフラ（4世紀中頃降下）……………As-C

極名・渋川テフラ（6世紀初め頃降下）

……………Hr-FA

極名・伊香保テフラ（6世紀中頃降下）

……………Hr-FP

浅間Bテフラ（推定1108年降下）

……………As-B

浅間Aテフラ（1783年頃降下）

……………As-A

3. 位置図は高崎市発行の1/2500の地図を原図として縮小あるいは拡大して使用した。

目次

序

例言

凡例

平成16年度高崎市内試掘調査一覧表	1, 2
平成16年度試掘調査位置図	3
6. 中居町	4
14. 下佐野一本木	4
16. 緑町	5
19. 倉賀野上町	6
20. 貝沢島	6
24. 赤坂	7
26. 倉賀野正六	9
29. 並榎八反田	10
31. 高松町	11
35. 江木北上井	12
36. 飯塚西金井	13
39. 上佐野穴塚	14
44. 下滝前畑	14
45. 貝沢稲荷塚	15
46. 萩原町	15
47. 乗附	16
41. 江木高山	20
15. 山名原口	24
赤坂、江木高山の出土土器について	25
平成16年度要約	25

平成16年度 市内試掘調査一覧表

No.	所在地	開発内容	面積(㎡)	調査内容
1	上佐野町舟橋 176-1	長屋住宅	565.00	近世以降のビッドあり。
2	新保町岡野 1296-1	土地分譲	1015.00	遺構なし。
3	和田町 2-3 他	土地売却	860.13	Bの堆積見られるが、遺構なし。
4	上並根町才摩 354-12	土地分譲	838.72	厚さ9cmのBの純層あり。B水田の可能性あり。
5	柴崎町道場 1830-1 ～ 栗崎町宮前 168-1	道路新設	8006.73	遺構、遺物なし。
6	中居町 1丁目 20-2	共同住宅	1488.31	土坑検出。須臾器、土師器片出土。
7	栄町 3-3, 3-6	事務所ビル新築	706.12	Bの純層あり。B下より珪を検出。
8	八幡原町字灰塚 428-1	無線基地局建設	280.00	遺構なし。段々傾斜地。自然地形上の溝あり。 流れ込み土器あり。
9	小八木町 2007-8 他	共同住宅	843.00	遺構・遺物なし。火山灰シルト土層上に現表土層。
10	小八木町字百久保 305	事務所、倉庫新築	3072.64	自然堤防に堆積した土層。遺構・遺物なし。
11	台新田町台西 137	宅地分譲	2380.00	泥流土層に堆積した混土層。遺構、遺物なし。
12	下佐野町宮松	建売分譲	1157.00	遺構・遺物無し。
13	高岡町岡久保 507-1	建売分譲	1211.62	遺構無し。
14	下佐野町一本木 667-3	土地分譲	598.64	奈良・平安期の施土、遺物あり。
15	山名町原 1-918-9	事務所ビル新築	7945.64	礎層、遺構・遺物なし。
16	緑町 4丁目 9 他、 浜尻町 221-1 他	店舗新設	6668.47	B下に珪検出。
17	上中居町薬師 504-1	土地売却	873.00	遺構・遺物なし。
18	貝沢町 717 他	駅前広場整備	1400.00	遺構・遺物なし。
19	倉賀野町上町 1385 他	造成工事	1610.00	古墳・中世土坑。
20	貝沢町島 752-5, 6	共同住宅	2054.13	平安時代の溝、鋤跡
21	岩鼻町 239-2	無線基地局建設	150.00	遺構・遺物なし。
22	上中居町早道場 25-6 他	共同住宅	679.93	遺構・遺物なし。
23	下大類町寺居 252-1	共同住宅	804.37	遺構・遺物なし。
24	赤坂町 75-2 他	共同住宅	880.00	江戸時代の建物、弥生土器出土。
25	東町 23 街区 7-21 他	駐車場	5124.87	低湿地、遺構なし。
26	倉賀野町内下正六 685-6	住宅建設	178.50	古墳周堀。
27	山名町土合 52-4	無線基地局建設		河川段層、遺構なし。

28	貝沢町東ノ木 1522-3	共同住宅	958.3	遺構・遺物なし。
29	上並堰町八反田 187	医療施設建設	1992.00	B水田検出。
30	乗附町字清水下 3291-1	排水池築造	170.25	遺構・遺物なし。
31	高松町 36-1	病棟建設	31423.00	弥生・古墳～平安時代、近世の遺物検出。
32	倉賀野町薬師前 848 2	共同住宅	915.33	遺構・遺物なし。
33	双葉町 33-3	共同住宅	1225.00	遺構・遺物なし。
34	和田田中町 238 1 他	事務所建設	1143.32	B軽石は存在するが、遺構なし。
35	江木町北土井 1397-2 甲	共同住宅	874.01	B下に畦検出。
36	飯塚町西金井 1135-1 他	分譲住宅	2896.19	B下に畦検出。
37	矢中町村前 1150-1 他	分譲住宅	132.31	遺物・遺構なし。
38	貝沢町井野前 368-1	ガソリンスタンド建設	1980.00	遺構なし、流れ込みの遺物あり。
39	上佐野町欠塚 542-1 他	共同住宅	841.16	中世柱穴・土坑・井戸
40	浜尻町八坂前 103-1 他	建売分譲	3758.27	A及びBの堆積良好。水田土壌確認。
41	江木町高田 240-3 他	共同住宅	458.91	弥生時代土坑・溝・ピットあり。
42	倉賀野町荒神 2292-1 他	アパート建設	1455.26	遺構なし。
43	東町 187-4 他	土地造成	3967.00	遺構なし、低湿地。
44	下滝町前畑 370-8 他	学校建設	14466.98	近世溝。
45	貝沢町稲荷塚 1214-1 他	共同住宅	869.00	中世柱穴、溝。
46	萩原町 6021-1	道路新設	1586.00	B及びFP下畦検出。
47	乗附町中原 3201 他	福祉施設建設	10012.00	縄文土坑、古墳周囲確認。
48	問屋町 4-5-1	分譲マンション建設	1562.54	遺構なし。
49	新保出中町堀向 151-1	都市計画道路	570.00	遺構なし。
50	飯塚町十二 458	寮用地	1906.00	中世溝。
51	中大類町新井西 60 他	大学建設	5760.00	遺構なし。
52	中尾町島羽東 27-1 他	工場建設	2792.92	遺構なし。
53	山名町土合 52-5	無線基地局建設	180.00	礫層、遺構なし。
54	貝沢町塚越 968-1 他	共同住宅	2362.67	遺構なし。
55	飯塚町西金井 1122-1	共同住宅	681.00	B下に畦検出。

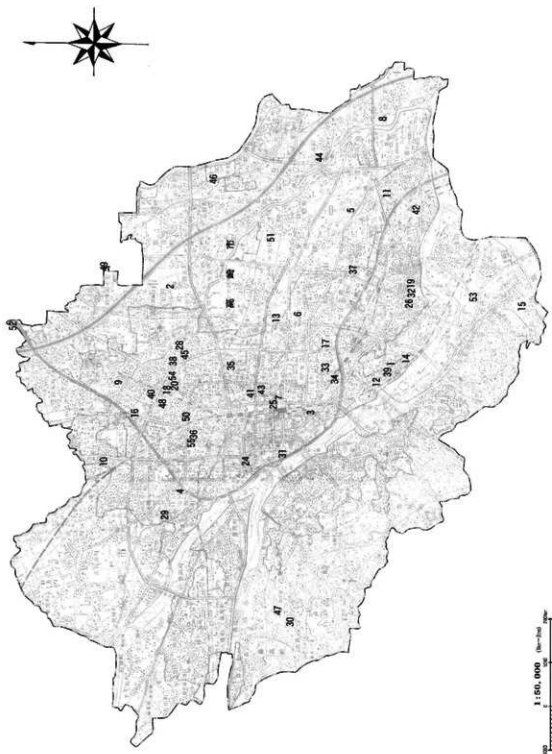


圖 1 平成16年度試驗調查位置圖

圖 1

6. 中居町

- (1) 所在地 中居町1丁目20-2
- (2) 調査期間 平成16年5月17日
- (3) 対象面積 1488.31㎡
- (4) 開発内容 共同住宅新築
- (5) 経過・結果

調査地は元々は水田であった。現在は盛土され畑地となっている。畑地に共同住宅を建設する予定である。トレンチ東側に遺構の確認面となる土層に重機の爪痕を確認した。トレンチ内には他にも破壊されている場所があるかも知れないが湧水が多く、それについては確認できなかった。盛土は50～60cmの厚さで、以下の下層は全て混土層で3層に分けられる。浅間A、砂、ローム乾混じり。浅間B、砂混じり層。砂、粘土を含むシルト土層が挟く。現表上から80～85cm下は黄色の泥流土層になる。現表土から67～77cmの深さにピット4箇所、火葬跡と考えられる土坑1箇所を検出した。ピットの直径は約30cm、深さ約40cmで北西、南東方向に等間隔でほぼ直線に並ぶ。火葬跡とした土坑は120cm×140cm、深さ約10cmの大きさで焼上があった。焼土内から土師器の坏片が出土した。同じレベルで北側に須恵器の蓋が出土した。直径は約14.5cm。胎土は緻密で蓋上面は回転ヘラ削り、内面は回転ナデ、つまみは扁平なボタン状で内側に凹みがある。縁部分はほぼ垂直に立ち上がり、かえりが無い。全体的にシャープな印象である。形状から8世紀代と考えられる。ピットはトレンチの外側にもあることが想像され、建物部分ではないかと思われる。これらの遺構はそんなに離れた時期ではないと考えられる。



写真1 トレンチ全景 西から

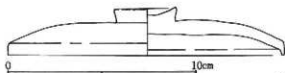


図2

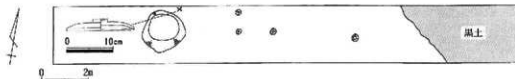


図3 平面図

14. 下佐野一本木

- (1) 所在地 下佐野町一本木567-3
- (2) 調査期間 平成16年6月10日
- (3) 対象面積 598.64㎡
- (4) 開発内容 土地分譲
- (5) 経過・結果

調査地の現況は畑である。麦刈りも中途の状態であった。トレンチは南北方向とその中間あたりに接続させた東西方向の「丁」字形に掘削した。便宜的に南北方向のトレンチを東トレンチ、東西方向のトレンチを西トレンチとした。調査土層は現耕作土層入れて3、4層目のA混土層下、B混土層の下である。結果、東トレンチにおいてA混土を覆上とした溝2条、不定形の土坑を検出した。西トレンチの西側では平安期と考えら



写真2 トレンチ全景 北から

れる一部木炭化を残した焼土が見つかった。その焼土の位置に羽釜、№9. が出土した。また土坑等の遺構が考えられる位置に現代瓦、建築廃棄物が埋められていた。その他、遺物の破片はトレンチ内にまんべんなく出土している。

出土遺物の№1. の3個は須恵器甕片、2は高台付き碗、3は雑な回転糸切り。4、5はいわゆる足高高台と言われる碗、6は上師器の鉢。7は回転を使用して外面ヘラナデ、内面ナデの黒色土器の高台付きの碗で8は高台断面がハの字の碗。7、8ともA混土の覆上からの出土で流れ込み土器であろう。

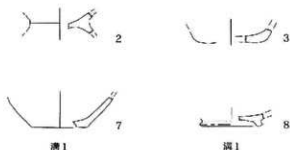


図4 出土遺物

16. 緑町

- (1) 所在地 緑町4丁目9-1
- (2) 調査期間 平成16年6月22～23日
- (3) 対象面積 6668.47㎡
- (4) 開発内容 店舗建設
- (5) 経過・結果

調査地は前建物を解体作業中でありトレンチの予定地点をできないところもあったが6本のトレンチを実施した。6個所のトレンチの結果はほぼ同じレベルで同時代の遺構を検出することが出来た。

調査地の土層の盛土は60～70cmあり、直下層は前耕作土ないし表土層で7～11cmの厚さ。次はA混じる砂質土層。次にB多量に混じる黄褐色砂質土層、次に厚さ6～11cmのB純層になる。B軽石層を除いた結果3ヶ所の3トレンチで畦畔を検出した。

調査地西側のトレンチではトレンチ直角に、およそ南北方向に向かうと思われる大畦畔を検出した。

(写3) 残り2個所は東側のトレンチで同じ時期の畦を検出した。(写4) 以上からB水田の遺構は調査地全面にあると考えられた。B水田以下の土層の遺構は確認されなかった。



写3



写4

19. 倉賀野上町

- (1) 所在地 倉賀野上町1385他
- (2) 調査期間 平成16年7月7日
- (3) 対象面積 1,610㎡
- (4) 開発内容 土地分譲
- (5) 経過・結果

住宅の共有道路となる部分にトレンチを実施した。

トレンチは南北方向の北端と東西方向の東端が接続した南北方向が長いL形である。

遺構の確認までの土層は盛土以下2層で、2層とも褐色の砂混じりの土層である。盛土表面から50～70cm



写5 東トレンチ 北から

下で確認した。確認面は削平されていて完全な状態ではないがトレンチ全面でビット40ヶ所と土坑5ヶ所を検出した。掘立建物跡と考えられるがビットは全面に広がりビット間のつながりは分からなかった。遺物はかけらではあるが出土している。これらの出土遺物から3期の時代の遺構が考えられた。古墳時代中期から後期のものと中世、近現代である。本調査地は倉賀野城の三ノ丸西側の郭の堀の肩あたりに位置していると考えられ、現在、堀は大半埋められてしまっていて沢状の川になっている。現在の盛土部分は調査地北では無くなり泥流上層だけになっている。上地状況から戦国時代から現在までそれほど破壊されてはいない場所と考えられる。

20. 貝沢島

- (1) 所在地 貝沢島751-1他
- (2) 調査期間 平成16年7月12日
- (3) 対象面積 2054.13㎡
- (4) 開発内容 共同住宅建築
- (5) 経過・結果

調査地は北と南のマンションに挟まれた東西に長い水田の休耕地で、草が全面に茂っている状態であった。

調査地を含めた周辺は元々水田区域であったが近年の住宅増加にともなって盛土され宅地化されてきた。

その結果水田と他の土地との境が分かりにくくなってきている。

現表土面から約40cm下で遺構を検出した。遺構までの上層は5層で全層泥上の砂質土層である。現表土16cmの厚さ以下の土層はA混土層、B混土層、B混土層、多量のB層である。多量のB層は砂が混じり純層とは言いにくいものであった。その直下に薄い灰層があり灰層下が黒褐色粘質土層である。

B軽石層を除いた結果、東西方向に長いトレンチのセンターに溝と溝の北側に添った状態で鋤痕を検出した。

溝幅は約20cmで、東西に長い溝に南方向に3ヶ所つながっている。鋤痕の上面から見る形は三角形で底辺部の長さは9～10cm、深さ約6～13cmで、サイズとしては3種類に分けられそうである。水田とされる土壌の鋤痕は市内にも過去調査されている。



写6 東トレンチ 西から



写7 トレンチ内鋤痕拡大 南西から

24. 赤坂

- (1) 所在地 赤坂町75-2他
- (2) 調査期間 平成16年8月5日
- (3) 対象面積 880㎡
- (4) 開発内容 共同住宅新築
- (5) 経過・結果

調査地は地方道路高崎・榛名線と国道354号が接続する交差点より西に100m行った場所で、450m西に烏川が東南方向に流れている。南250mに市立中央小学校、市立高松中学校がある。西の隣接に恵徳寺、南隣接は高崎神社がある標高97.8mに位置している。この地点の標高から烏川に向かって急激に下っていく。川の突き当たりまでの高低差は9.1～9.5mある。およそ旧烏川の川幅あたりに位置していると考えられる。



図5 位置図

調査地は民家を解体した跡地で更地になっているが表面は荒れてた状態になっている。表土層は建物解体時の基礎材や建物付属物との混土層になっている。

これらの土の混合状態や攪乱部分はあるが、此の土地が幾度も利用されたようには見えない。

遺構確認までの土層は砂混じりで2、3層に分けられる。

トレンチは建物が建つ位置におよそ東西方向に長い長方形で、長さ16.5m、幅1.8mである。

掘削の深さ約84cmの位置で江戸時代中期後半から後期と考えられる陶磁器片が土坑の集石(写9)の中や周辺から出土した。土坑はトレンチ内に大小15ヶ所ほど検出されている(写8)が同じ江戸時代の建物跡と考えている。大きい土坑は約1.8m(写9)が1ヶ所出ている。1m前後の大きさのものが5ヶ所、残りはビット含め20～50cmの大きさのものである。

トレンチ東側において南北方向の溝、溝幅およそ4.5m、深さ50cmのなだらかな断面U字形をした溝を掘削した。溝の中に江戸時代の土坑があり、溝そのものは土層、土質から中世が考えられた。

トレンチなかほどから西寄りに配流上層の中から珪土層の塊が出土した。(写10)、(図6)

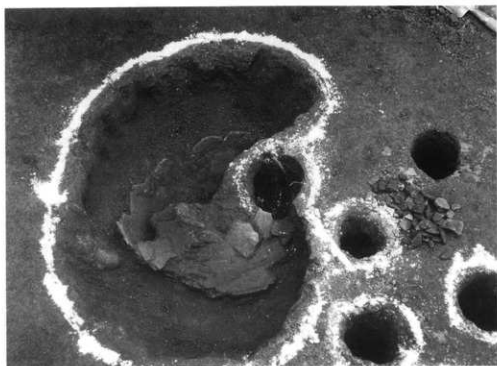
土器は初め表面に小さいかけらから始まり、大きな状態に成っていった。接合した土器は完成されないのので正確な数値にはならないが粗み立てた大きさは高さ52cm、胴の最大幅43.8cm、底部直径11.3cm、肉厚5mmとなっている。(26頁につづく)



写8 トレンチ全景 西から



写9 集石 西から



写 10 土器出土状況

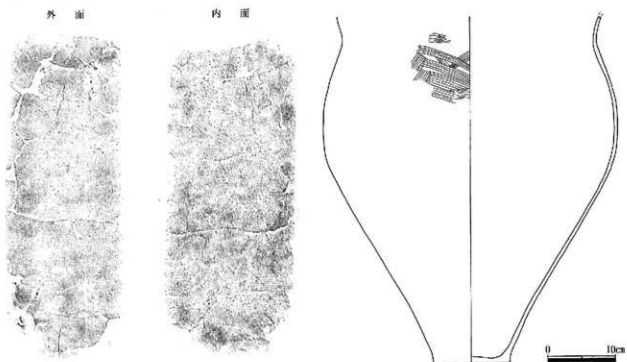


図6 トレンチ内出土土器拓本及び実測図

26. 倉賀野正六

- (1) 所在地 倉賀野町正六685-6
 (2) 調査期間 平成16年9月1～2日
 (3) 対象面積 178.5㎡
 (4) 開発内容 一戸建て住宅建設
 (5) 経過・結果

本調査地は烏川左岸にあり、東北に直線で約300mが旧17号の和田山中・倉賀野線が走り、南西170mに粕川が烏川に向かっていく。町内道路を挟んで南に小鶴巻古墳があり小鶴巻古墳の南に4世紀末から5世紀初めとされる全長123mの前方後円墳の大鶴巻古墳がある。南東500mには万福寺遺跡がある。

その他調査地の周辺は古墳時代、中世、近世の遺構や遺跡が多くあり市の遺跡包蔵地域になっている。

小鶴巻古墳については全長約87.5mの前方後円墳である。主体部は例板式石棺で舟形石棺とされている。

周堀は扇形タイプである。高崎市内では舟形石棺を持つ古墳は6基あり、それらの築造はおおよそ5世紀後半から6世紀初頭とされている。

小鶴巻古墳についても墳丘で採集した埴輪等参考にした結果、築造年代は5世紀後半と考えられている。

過去、一般的に個人の住宅建設においては遺跡の破壊される位置まで地中を掘ることは考えられなかったのでトレンチ調査はされないことが多かったが今回の調査地は古墳の周堀の位置にあると考えられ確認調査となった。トレンチは古墳のくびれにあたる部分が考えられる。磁北から約18度西に傾いている。

掘削の結果、現表土面より1.95m下に掘り底を確認

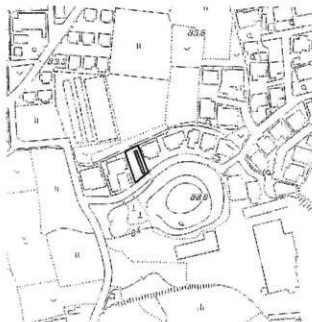
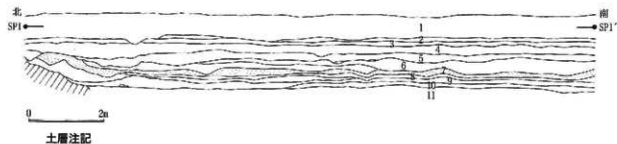


図7 位置図



写真11 トレンチ完成状況 南から



土層注記

1	盛土		
2	10YR 3/3 暗褐色 前耕土。砂混る粘質土。	7	10YR 3/2 黒褐色 砂質土。B軽石多し。
3	* 4/4 褐色 ゆるい粘り。砂粘質土。	8	* 2/2 * * *
4	* 3/3-4/4 暗褐色 B混る砂質土。	9	* * * *
5	* 3/3 褐色 *	10	* * * 粘質土。
6	* 3/3 * *	11	* * * 地山 ₁₈

図8 トレンチ東壁 セクション図



写 12 トレンチ東壁 北から



写 13 トレンチ東壁 南から



写 14 トレンチ東壁 西から



写 15 トレンチ北端 西から

した。(写12～15) トレンチの上層は盛土層を除き9層である。9層全て混じりの砂質土層となっている。図8に於いて7層はほぼB粒石の純層としてよいが他の砂がわずかに混じっている。そのほぼBの純層下には薄い灰層があった。(写14、15) トレンチ北端において堀の立ち上がりを確認することが出来た。(写15) (図8)

堀の立ち上りを前方部側に少し延長してみたところ同じ位置に堀肩があって堀が回っていくことが分かった。これにより堀の長さを推定してみると、トレンチ部分では15mあり、現在の住宅地内の道路も堀と考えれば、道路幅は約5mなので足すと約20mが堀幅になる。

2.9. 並榎八反田

- (1) 所在地 上並榎町八反田187
- (2) 調査期間 平成16年9月8日
- (3) 対象面積 1,992㎡
- (4) 開発内容 医療施設の建設
- (5) 経過・結果

現在、従業員の駐車場として利用されている。調査の当日も満車状態であった。トレンチは最小限の車の移動により実施した。駐車場の表土面は盛土の上にバラス敷きである。盛土は66cmある。調査面は7層目のBの純層下黒色粘質土である。結果、B直下層に南北方向に上幅50cm、下幅87cm、高さ14cmの畦を検出した。

さらに下層であるF A洪水層下に黒色粘質土の高まりがあったが自然地形が考えられる。



写 16 トレンチ全景 西から

3.1. 高松町

- (1) 所在地 高松町36-1
- (2) 調査期間 平成16年9月27～28日
- (3) 対象面積 31,423㎡
- (4) 開発内容 病棟建設
- (5) 経過・結果

本調査地は国立高崎病院内にある。現在の病棟を改築することになり試掘調査の依頼があった。国立高崎病院は高崎城の遺跡内に含まれ、城内での発掘調査は一連の高崎城遺跡として報告書が出ている。

昨年度は平成15年12月から平成16年1月まで調査され高崎城XVI遺跡として発掘調査報告書が出版されている。そこでの成果は高崎城の堀、掘立柱建物跡、土坑、溝が検出された。遺物はそれらの遺構から出土している。時代は江戸時代の陶磁器、瓦等である。本調査地は前年度の発掘調査位置の東南約100mに位置している。今回の試掘調査でも前回と同じような遺構が考えられていた。トレンチは図9の位置に4本おこなった。調査面は現表土面より1トレンチは99～107cmの深さの位置が調査面で、盛土除いて6層である。

6層の底部から古墳時代の長胴甕部分、10世紀代の高台付碗(図10-3)、平底碗(図10-1、2)、布目の瓦(図10-5)等出土している。

2トレンチは盛土を除き3層で96.5～100cmの深さが調査面である。覆土から縄文中期の羽状縄文土器片、節描波状文の弥生土器、古墳時代の須恵器(図10-4)、土師器が出土した。3トレンチは約92cmの深さの調査で、古墳時代の甕片が出土。

4トレンチは盛土以下3層での調査。一番深い位置で114cm。現表土面、約25cm下の溝より10世紀代の高台付き黒色土器(図10-6)が、覆土内から(図10-7)の弥生土器が出土した。

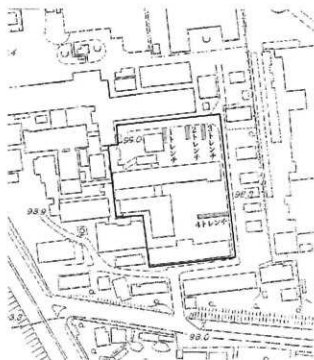


図9 位置図



写真17 トレンチ全景 東から

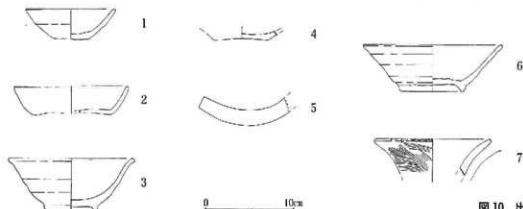


図10 出土土器

35. 江木北上井

- (1) 所在地 江木町北土井1397-2
- (2) 調査期間 平成16年10月14日
- (3) 対象面積 874.01㎡
- (4) 開発内容 共同住宅新築
- (5) 経過・結果

本調査地は地方道路高崎・駒形線より南に240m下がり、市環状線から西に330m入った場所で標高約90.8mに位置する。調査地ならびに調査地周辺は昭和の時代に土地区画整備が実施されている。

市環状線が完成してから急激に店舗、マンションが増加している。調査地の周りでも新築マンションや新築個人住宅が目立ってきている。

調査地は現在水田になっているが掘削してみると土地区画整備より以前に盛上されている土地であった。

当該地は南北方向に長い長方形である。トレンチは北側、中、南側の3ヶ所に東西方向にいった。(図11)述べたように現況は水田ではあるが全面盛土で3トレンチとも盛土の厚さは46~48cmある。調査はA、B下を対象とした。深堀によってその下の下層も調査した。盛土を除いて5層目がBの純層である。現表土面から70~76cm下がB下黒色粘質土になる。純層は北側が残りがよく南に下がるに従い悪くなり、南側トレンチで3cmの厚さになる。北側トレンチ東側に於いて上幅約1.2m、下幅約3m、高さ約5cmの大畦畔を検出した。(写真18、19、20) 大畦畔は南に下るごとに東寄りに向かっているがほぼ磁北に向いている。

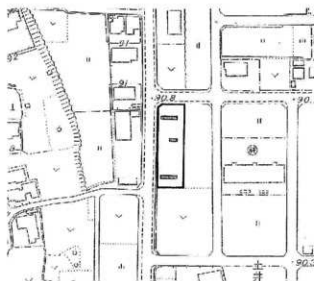


図11 位置図

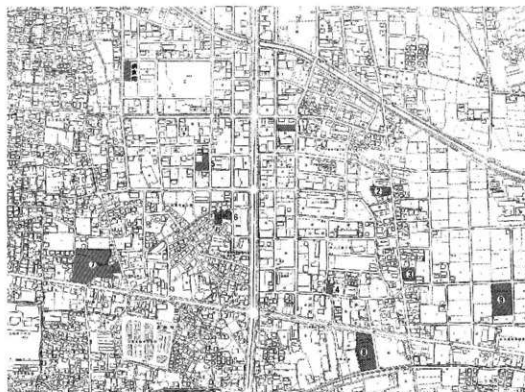


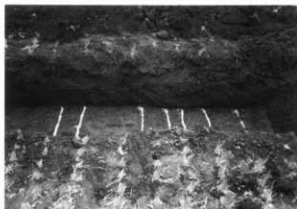
図12 調査地

南側トレンチでの大畦畔はフラットに近く水田面よりわずか高く、畦畔の痕跡を残している状態であった。B水田跡以外の遺構は見つからなかった。B水田より下層は泥流土層になっている。平成15年に南大類中通り遺跡(図12-9)の発掘調査で南北の大畦畔を検出している。本調査地から約109mの条田で測ってみたところ、およそ重なり合うようである。

図12の数字の位置は過去にトレンチ調査でB下に畦や水田跡を確認した場所である。図12の地図全域条田制区画の範囲にあり、さらに東南に広がっている。



写 18 北トレンチ北壁と畦畔 南から



写 19 南トレンチ北壁と畦畔 南から



写 20 南トレンチ北壁と畦畔 南から

36. 飯塚西金井

- (1) 所在地 飯塚町西金井1135-1他
- (2) 調査期間 平成16年10月18日
- (3) 対象面積 2,896.19㎡
- (4) 開発内容 分譲住宅用地
- (5) 経過・結果

本調査地は南約500mにJ R信越線が走り、東200mにJ R上越・北陸新幹線が通っている。

礫混じりの砂で盛土され、現在、車の駐車場として使用中であり掘削には制約があった。トレンチは東西に長い調査地形に従って掘削した。近年まで湿地と水



写 21 トレンチ全景 東から

田だったようであるがまったく面影はない。土層を上から順に説明すると盛土は約70cm。前耕作土層は約12cm。A混じり黒褐色砂質土層は12cm。B混じり黒褐色砂質土層は約5cm。Bを多量に混じる黒褐色砂質土層は約6cm。Bの純層は9~10cm。黒色粘質土層は約10cm。灰黄褐色粘質土層は13~14cm。褐灰色粘質土層は10cm。暗オリーブ色の粘質土層は約9cm。灰オリーブ色粘質土層は10cmである。以上部分的な深堀までのトレンチ内の土層であるが遺構の検出はB軽石純層の下に黒色粘質土層である。B軽石層を取り除いた結果畦を検出した。畦の形は崩れていて良い状態ではない。上幅26cm、下幅50cm、高さ5.5cmである。南北方位の2条とそれに交わり合う東西方向の畦1条である。過去の試掘調査で本調査地中心に500m範囲にB水田の遺構が検出されている。B下の畦の遺構以外は上層、下層とも確認されなかった。

39. 上佐野欠塚

- (1) 所在地 上佐野町欠塚852-1他
 (2) 調査期間 平成16年11月9日
 (3) 対象面積 841.16㎡
 (4) 開発内容 アパート新築工事
 (5) 経過・結果

本調査所在地は西100mにJR北陸・上越新幹線が走り、東200mは県道・一本松通りが南北に通っている。国道・17号線から南へ約1kmに位置する。

調査地の南には6世紀末から7世紀初頭に築造されたとされる前方後円墳、漆山古墳がある。

この地域も開発が活発で本調査地周辺は新築のアパート、マンションが多く建設されている。

調査地は周辺より少し低い土地だが畑になっている。現在は野菜が栽培されている。

トレンチは畑表面より63~82cm下を調査した。

掘り過ぎ部分があり遺構確認面は約13cmそれより上位置になる。掘削の結果、上幅15~30cm、下幅6~10cm、深さ19~40cmの柱穴13ヶ所、上坑6ヶ所、直径2cmの井戸1ヶ所を検出した。埋め土と共に40cm大の礫が埋まっていた。土層は3層に分けられ、A混土層、B混土層でB混土層下で埴、内耳鍋(図13)が出土した。同時代の土器片も出土。

44. 下滝前畑

- (1) 所在地 下滝町前畑370-8他
 (2) 調査期間 平成16年12月13~14日
 (3) 対象面積 14,466.98㎡
 (4) 開発内容 学校建設
 (5) 経過・結果

本調査地は地方道高崎・伊勢崎線から南に約600m、前橋・長瀬バイパス線の東側150mにあつて、南前方は井野川が流れている。井野川左岸の縁辺に位置する。南側の井野川を渡り約0.9km行くと6世紀後半の築造と言われている縮貫観音山古墳がある。

北西500m内に古墳が3つも点在し、周辺には中世、近世の遺構、遺跡があつて市の包蔵指定地域でもある。トレンチは南側を南トレンチ、北側を北トレンチ、とし、さらに確認のために北トレンチの北にトレンチをいれて3ヶ所実施した。調査面は北トレンチで98~100cm、南トレンチで93~136cmである。南トレンチでは直径20~27cm、深さ40cmの直列の柱穴と浅間A軽石の覆土の溝、上幅136cm、下幅50cm、深さ90cmの溝を検出した。これらは土層から近世遺構である。此の溝の南にA混土の覆土の溝を検出した。南トレンチ北側では土師器が出土しているがトレンチが狭すぎて遺構は確認できなかった。北トレンチでは洪水土層で遺構はなく、北トレンチの北のトレンチは高台状な地形で砂粒、シルト、ローム漸移層になっていた。土師器、須恵器の坏、甕部分が出土している。



写22 トレンチ全景 南から

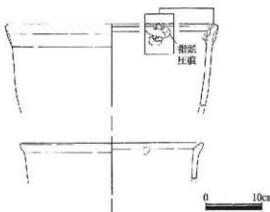


図13 出土土器



写23 南トレンチ全景 北西から

4.5. 貝沢稲荷塚

- (1) 所在地 貝沢町稲荷塚1214-1
- (2) 調査期間 平成17年1月6日
- (3) 対象面積 869㎡
- (4) 開発内容 集合住宅建築
- (5) 経過・結果

本調査地は市内・貝沢町内を走る市環状線の東側に80～90m入った住宅区域にある。周辺で目につく所では北側の町内道路の斜め北に不動寺、西に走る環状線の西側には市東部公民館、五霊神社がある。

地目は田畑になっているが表面は放棄された基礎生コンを利用して整地し、現在は駐車場等に使っている。

トレンチは調査地の地形にあわせて東北～南西に長い長方形で2本実施した。北側のトレンチを北トレンチ、南側のトレンチを南トレンチとした。

掘削の調査面までの深さは北トレンチで98～100cm、南トレンチで93～136cmである。上層は北トレンチで5層、A混土、B混じるシルト土層で地山はロームである。南トレンチは7層で7層目のB混土層をのぞき全層A混土層である。北トレンチでロームを掘り込んだ中世の柱穴数十個を検出した。トレンチ内全面なので2ヶ所ほど対応できたが他は分からない。南トレンチで中世溝の溝肩（堀）を確認した。



写24 北トレンチ全景 北東から



写25 南トレンチ溝 東から

4.6. 萩原町

- (1) 所在地 萩原町93-1, 602-1
- (2) 調査期間 平成17年1月17～20日
- (3) 対象面積 1,585㎡
- (4) 開発内容 道路新設
- (5) 経過・結果

調査地は前年度に発掘調査を実施した萩原町沖中遺跡の北側につながる道路予定地の一部である。

道路予定地の道路が完成すると地方道高崎・駒形線に接続される。調整中の場所がありそれを除いた予定地部分がトレンチ調査の対象地になった。(図14)

調査地の現状は水田である。調査結果は水田遺構である。発掘調査の予定が決まったので成果の詳細は後日公表されるのでここではトレンチ調査の結果の概要を述べておく。1トレンチ：大量のBあり、黒色粘質土層あり、FP、FA洪水土層があった。

2トレンチ：B純層とB下黒色粘質土層あり、FP洪水土層あり、両テフラ下に畔あり。3トレンチ：B土層、FP洪水土層あり水田が認められた。

3トレンチ



図14 位置図



写 26 3トレンチB下水田 南から



写 27 2トレンチF P下畦畔 南西から

4.7. 乗附

- (1) 所在地 乗附町中原3201他
- (2) 調査期間 平成17年1月24日～27日
- (3) 対象面積 10,012㎡
- (4) 開発内容 障害者福祉施設建設
- (5) 経過・結果

調査地は高崎市役所のおよそ西方にあたる岩野谷丘陵、あるいは観音山丘陵とも呼ばれる山頂に近い場所で西側、北側と東側に斜面をもつ山に囲まれた中にある平地林である。外観的にはそれらを含めた山である。この山を地方道藤木・高崎線が東北から蛇行しながら廻って西側を走り西南方向に向かって走っている。特に調査地の東から東南は強く傾斜している。南面はゆるく下る傾斜面である。元々は山であったのを開削して現状の畑地に利用してきた。海拔では260～270mの範囲が今回の調査対象地である。

対象地から離れた場所に現在障害者福祉施設があり時間が立ち不便をきたすようになったので、今回の調査地に施設を移動し新たに建設する計画となった。

掘削のトレンチは(図15)にあるように1から9まで番号を付したトレンチ、9ヶ所を関係者立会の元で実施した。2、4、5トレンチで遺構を確認した。

1トレンチ：現地表面から約56cmが調査面で4層あり、3層とも砂混じり土層で4層目がロームで、ローム面に数個のビット状のものと自然溝1条検出した。ビット状は蔓類の作用でできた穴と考えられた。

2トレンチ：耕作土面から約47cm掘削した。トレンチ中程から西に傾斜している。耕作土は良く攪拌されている状態だった。土層は1トレンチに同じである。西傾斜面にロームを割り込んだ約112cm×142cm、深さ16cm(深いところ約35cm)の土坑を検出した。(写36) 土坑の壁際、センター部、底部等から黒曜石の石鏃数点(図16-1, 2, 3)と未製品数点が出土した。石鏃とかなり表面の荒れた土器片3点が出土した。表面にわずかに縄文の痕があり、胎土に繊維が混じっているもろい土器片であった。土器の特徴から縄文前期の黒浜式と考える。(写34) 土坑内において中心から西南位置に数個の窪みのある長方形の自然石が一緒にでている。これらから縄文時代の黒浜期の工房跡と考えられる。

3トレンチ：ゆるい西傾斜面で、土層は1、2トレンチに同じ。約30cmの深さが調査面である。ビット状のものが幾つかあったが1トレンチと同様なものと考えている。またビットも検出されたが全体は分らなかった。掘削時の土の中から石鏃が2点出土している。

4トレンチ：土層は4層で、前3本のトレンチに同じ。ビットが数個確認されたが全体像は分からない。あるビットから2トレンチと同じ黒浜式土器のかけらが出土した。

5トレンチ：里耕作土入れて3層目下4層上面約38cmに前方後円墳あるいは帆立貝式古墳の前方部の堀部分を



図 15 位置図



写 28 1トレンチ全景 東から



写 29 2トレンチ全景 東から



写 30 3トレンチ全景 南から



写 31 4トレンチ全景 南から



写 32 5トレンチ全景 南から



写 33 6トレンチ全景 南から



写 34 2トレンチ 出土遺物

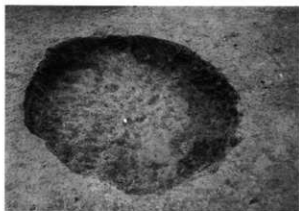


写 35 5トレンチ 出土遺物

確認した。堀の覆土は確認面より5層で2層目にB軽石層がある。トレンチ内の前方部は葺石されていて根石部分も確認できた。堀の深さは約60cmで堀幅は前方部斜めの部分をトレンチしているので正確には分からないが3.5mあったのでその前後になると考えられる。(写37、38)

堀の葺石の間や底から埴輪片が出土した。(写35・図16-4、5、6) 4は形象埴輪で何かの台座部分と思われる。赤色塗彩されている。5は円筒埴輪で内面ナデ、外面縦ハケで黒斑がある。6も円筒埴輪の突帯部分。

凸部分はしっかりした形で、明瞭な印象がある。その他表面が摩耗している円筒埴輪と思われるものが数点出土している。2、3片の埴輪での早急な判断はできないが調査地の古墳の築造は出土遺物の特徴から5世紀代の範囲に考えられる。後日の調査によって詳しく判明せよう。



写 36 2トレンチ土坑 東から



写 37 5トレンチ前方部 西から



写 38 5トレンチ溝部分 南から

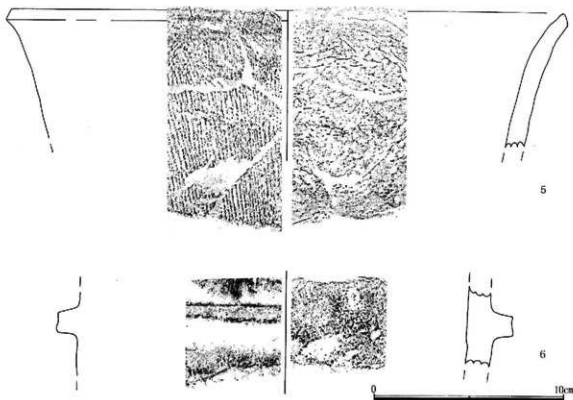
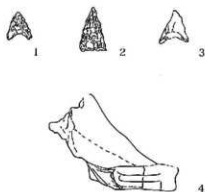


図 16 各トレンチ内出土遺物

4.1. 江木高山

- (1) 所在地 江木町高山240-3他
- (2) 調査期間 平成16年11月22日
- (3) 対象面積 458.91㎡
- (4) 開発内容 共同住宅新築
- (5) 経過・結果

本調査地はJR高崎駅から北東へ直線で約700m、国道354号から約50m北に入った場所にある。

地形的には厚い泥流層の上位高崎台地上にある。

台地には複雑に小河川が数あり東南方位に向かって流れている。小河川の一つである長野堀が調査地東50mに流れている。本調査地の南数百mの東町I～VI遺跡では弥生、平安時代の水田跡を調査している。周辺600m範囲には水田遺跡が多い。

調査地は前にある建物のせいか土は湿気を含んでいる。地目は田となっているが土地の表面はかき混ぜられた状態で見ただけでは畑地のようにも見える。調査当日はのびた草が刈り取られ更地にされていた。

基準土層：上層から下層へ、黒色土、25cm厚、表土層。次、黒褐色土、10cm厚、砂混じり。次、暗褐色、わずかにローム粉、砂が混じるシルト土層、5～6cm厚。次、黄色のローム粉、砂混じりの暗褐色土層、4～5.5cm厚。次、黒褐色、砂質土層、5cm厚。次、黒色、砂混じるシルト、7cm厚。次にローム層。

トレンチによる確認調査面までの深さは現表土面から約60cmである。その位置において土坑2ヶ所、溝2条、ピット6個を確認した。(図18)

溝1は幅34cm、深さ15cm。溝2はトレンチ北壁際からトレンチ外にあり計測できなかった。土坑についても完全な形はない。トレンチで測れる範囲での最大幅は土坑1は約3m、土坑2は約2mである。深さは約20cmで浅くて底面は平らである。しかも土坑1は底面下まで攪乱されていた。土坑2についてもいじられている感じがかった。ピットの穴の深さは浅く状態の良いものでない。トレンチ中間に集まっている。土坑1の南壁において図19-1、2、3の土器、写40、41、42が出た。土器は確認面に部分として出ていたが取り上げる段階で壁の中に、ローム土層の中にひろがっていった。覆土は固くしまり掘方は分りにくいがロームと土器の間の砂質土がそれにあたるだろう。それほど大きな掘方ではない。動いた様子もなく土坑の壁に体部全体を南側に傾けて出した。出土土器は図19-1の壺を逆さまにかぶせた図19-3の甕である。(写40) (写41)

壺を取り出してみると壺の部分が壺の底の方にまで砂に混じって入っていた。(写42)

図19-1は壺で外面は肩から胴部分中程まで帯状の縄文L Rが施文されている。縄文は帯状模様を意識して始からその位置に方向をかえたりして施文している。1本の道具で平行沈線を引いている。帯状縄文以外はいねいにヘラナデされている。内面はヘラナデされている。2は壺の口縁部で外面は櫛ガキされている。3は器高29cm、胴の最大径は22.2cmある。受け口状の口唇部は縄文を施文している。(25ページに続く)

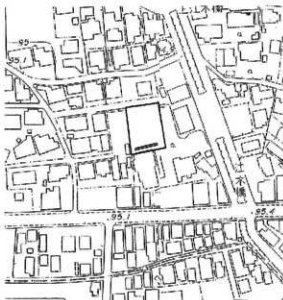


図17 位置図

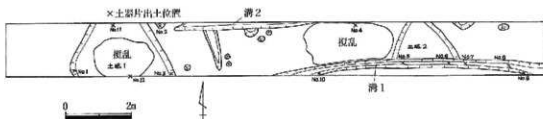


図18 トレンチ平面図

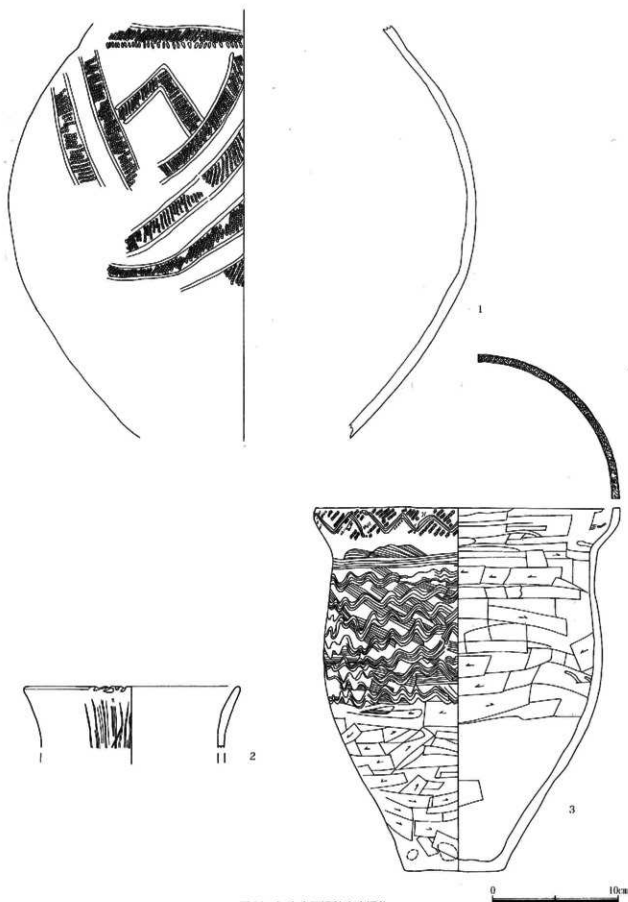


図 19 江戸高田遺跡出土遺物



写 39 トレンチ全景 西から



写 40 土器出土状況 1 北から



写 41 土器出土状況 2 北から



写 42 土器内底部

15. 山名原口

- (1) 所在地 山名町原口918-9
- (2) 調査期間 平成16年6月14~16日
- (3) 対象面積 7,945.64㎡
- (4) 開発内容 (仮) 市技能開発センター建設
- (5) 経過・結果

本調査地は上信電気鉄道の山名駅から南に500m下った場所で、すぐ前には県道後賀・山名停車場線が東西方向に走っている。

本調査地の西側に隣接する群馬職業訓練大学校は山名原口Ⅰ遺跡として奈良・平安の堅穴住居跡50軒、古墳が2基検出されている。東隣りでは山名原口Ⅱ遺跡として2基の古墳が調査された。南隣には前方後円墳の伊勢塚古墳がある。海拔は87m前後にある。

周辺はこれらの遺跡以外にも多くあり、調査地一帯を山名古墳群と名称されている。

このような環境の中で一般的には当然遺跡が考えられていた。対象地に9本のトレンチを実施した。

(図20)

1 トレンチ：盛土が115cm。下層は黒色砂質土層が3層に分かれる。その下は黒色粘質土層が0~17cmの厚さがあり以下は粘土を含む泥流層がつづく。

2 トレンチから8 トレンチまで盛土は120~140cm、9 トレンチでは150cm以上あった。あと全トレンチで言えることは盛土層の下の下層は砂混じりの前耕作土層があり稲の切り株や雑草のつぶれた跡が残っていた。

2, 3層に分けられる。その下の下層に黒色粘質土層があるところもある。また岩石や山礫の風化した砂混じりの土層がある。その下は大礫、小礫を混えた砂礫層が地中深く続いている。トレンチの埋め戻しの時に再度深く掘ってみたところ7 トレンチでは1.84mまで、8 トレンチは礫層下2.2m、9 トレンチは2.5mまで礫があり、まだまだ下まで続くようである。此の砂礫層は川底に堆積したものと考えられる。西となりの大学でのボーリング調査の結果では表面1.6m以下は石混じりの砂礫層が3~7mもあることが報告されている。

山名古墳群とされている一帯で遺構や遺跡になった場所は泥流やローム漸移層あるいはローム層が下層に堆積している少し微高地状の部分にあることがわかる。此の周辺の沖積低地は畑、水田等に利用されている。

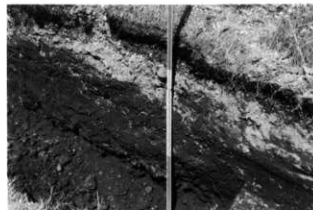
また錦川によって浸食された礫層主体の地層の上に現在の土層がある。



図20 位置図



写43 3トレンチ 東から



写44 8トレンチ 北壁から

赤坂、江木高田の出土土器について

赤坂出土の土器は前ページで言ったが完全な器でない。輪轆が巻き上げの製法で全体的に薄くつくられている。

器高は完全ではないけれども52cmある。胴の最大幅は43.8cm、底部直径は11.3cm、厚さは胴部分あたりで約5mmである。口縁から口唇部分は欠損してないが口唇部分を思わせるところもあり図6にわずかに付け足した程度のものではないだろうか。自然に外反している。最大径は胴部上半にあり、そこから直線的に底部に向かっていく。頸は短い。底部は削って調整してある。胎上は角閃石、石英、チャートが目についた。もろいが割まっている。外面は全面に幾度かハケ調整し肩部分に縦走羽状文風に、あるいは綾形状にハケをほどこしてある。内面も幾度か全面ハケ調整して、ハケ止めの痕がある。

江木高田出土（図19-3）の口縁部は口唇と同じ縄文を施しその上に1本の波形の沈線を描く。頸部は4本の沈線を時計回りに一周させている。胴の最大径は器高の半分より少し上位にある。外面はヘラなどで4本単位の波状文を施文している。波状文は比較的に水平にいていかに描かれている。頸部と胴部の櫛描きに使用した施文具は同じものであろう。胴下半部もいていかにヘラなどでされている。底部直径は約8cmでケズリとヘラなどでされている。内面は底部から口縁、口唇部までいていかにヘラなどでされている。

関東で出土する弥生土器の伝播は機内より天竜川水系と千曲川水系に分けられ、群馬県の出土土器は千曲川水系に属していると言われている。千曲川水系のこの時期の櫛描紋土器は中部高地型櫛描紋として通用している。

中部高地型櫛描紋の中期からの後期まで流れは新沢町Ⅱ式・栗林Ⅰ式・栗林Ⅱ式・吉田式・箱崎水式・御屋敷式となっている。烏川左岸より台地には点々として竜見町式期の遺跡が連なっている。竜見町式土器は栗林式の中後半に比定されている。今回、赤坂町出土土器は竜見町式土器の特徴がある。身近な例では清里・庚申塚遺跡の出土土器に近似している。弥生の縄文は栗林式ではよく施文されるが吉田式になるとほとんど施されなくなると言う。江木高田の図19-3の壺の制作に使ったかどうかは底部はケズリあるいはヘラミギきされているので分からないが、器形の特徴は栗林式Ⅱを示している。図19-1についても頸部を凸帯部を造って縄文、下部に刺突をめぐらせている。以上から赤坂、江木高田の出土土器は栗林式Ⅱの範囲にあると思う。

平成16年度要約

今年度の試掘調査は例年と同じで水田跡が多く畦とともに検出された。畦を伴ったB水田はNa4、上並榎才摩、Na7、栄町、Na16、緑町・浜尻、Na29、上並榎八反田、Na35、江木北上井、Na36、飯塚町西金井、

Na40、浜尻八坂前、Na46、萩原町、Na55、飯塚西金井である。F P水田はNa46、萩原町。F A水田あるいは可能性があったのはNa4、上並榎才摩、Na29、上並榎八反田。可能性の高いのはNa46、萩原町である。

古墳に因しては2ヶ所をおこなった。Na26、倉賀野正六。ここでは小鶴巻古墳の堀輪の規模を確認することができた。Na47、栗附中原。前方後円の前方形の堀があることを確認した。築造時の葺石も検出された。

奈良・平安時代ではNa6、中居町でビット、土坑が、土坑の覆土から土器が出土。Na14、下佐野一本木で焼土とともに土器の出土があった。Na20、平安時代の鋤痕、溝の検出。Na31、高松町では土坑と共に遺物が出土している。中世はNa19、倉賀野上町。ビット群を検出。Na39、上佐野欠塚、柱穴、土坑、井戸の検出。

Na45、貝沢稻荷坂。建物跡、柱穴、堀または溝、館と館を巡る堀が考えられる。館の存在は文書にはないものである。この町内の東で中世の掘立建物の柱穴を試掘調査で検出しているので関連があるのではなかろうか。

Na50、飯塚十二。溝を検出。江戸・近世はNa24、赤坂町建物基礎と溝を検出。高松町でも遺物が出ている。

弥生時代については遺構は確認されなかったがNa52、中尾島村で覆土から石器、石斧がしゅつでしている。

縄文時代はNa47、栗附中原で前期黒浜期の工房跡とビットを検出し、石鏃、土器片が出土した。

以上の試掘調査の結果から発掘調査の対象になったのはNa16の緑町・浜尻、Na31の高松町、Na29、上並榎八反田、Na46萩原町の4ヶ所で、実際に建物建設される段階になれば対象が増えることになる。

山名原口を取り上げのすでに述べたように調査地は古墳群や遺構に囲まれた中にあり遺跡が当然あるとの先入観があり発掘調査不要の解明する必要があったからである。高松町でも同じ思いにあった。

抄 録

フリガナ	しないいせきはつくつちょうぎほうこくしょ
書 名	市内遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第199集
編 集 者 名	神戸 肇
編 集 機 関	高崎市教育委員会
所 在 地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2005年3月31日

高崎市内遺跡

平成17年3月31日 印刷

平成17年3月31日 発行

編集 高崎市教育委員会

発行 高崎市教育委員会

印刷 (株) 精 真 社